

平成30年度 第2回脊椎脊髄病学会、日本側弯症学会、  
社会保険等システム検討委員会 会議録

日時：2018年5月30日（水）18：30～

場所：東京医科大学新教育研究棟4F第4セミナー室

委員：大川 淳（担当理事）、遠藤 健司（JSSR 委員長）、青田 洋一（側弯症委員長）、高野 裕一、武者 芳朗、渡辺 航太、鈴木 秀和（書記）、山田 浩司、山縣 正庸、平泉 裕、新井 嘉容、井上 玄、八木 満、谷口 優樹、酒井大輔（15名）

欠席：種市 洋、吉井 俊貴、藤田 順之、宮城 正行

**議事録**

1) 次回要望に向けてのスケジュールの確認。平成30年度改定の不合理、矛盾点の依頼項目(OPLLについて)実務委員会で申請したことを報告

2) 前回委員会にて決定の要望項目について、分担担当より説明

**新規要望(5)：**

コンドリアーゼ(遠藤)：脊椎骨盤組織採取その他(K126-2)準用となった。試案掲載無し。手術委員会に提出し、新規要望予定

人工椎間板(吉井)：脊椎固定術前方椎体固定(K142-1)準用となった。難易度は高いが、骨移植が無い分通常の前固定と比べて安くなっているため新規要望予定。外保連試案掲載あり 修正するなら症例集めて手術委員会に提出。

PPS(高野)：多施設の検討ではopenに比して入院点数、入院日数などで差あり(特に外傷で顕著)。コストや患者ベネフィットの面からアピール、新規要望する。試案は「脊椎固定術に対するインストゥルメンテーション手技」あり 修正するなら手術委員会に提出。

再手術(武者)：人工関節は各部位に再手術としてのKコードあり。脊椎は多様性が問題。instrumentation は名古屋や岡山などのデータベースから検討できないか。可能であればK142と同様に、除圧、固定それぞれの術式の再手術を掲載したい。外保連試案もないので手術委員会に提出要。

陰性モデル(神戸労災鷺見先生)

サルコペニア(千葉大稲毛)：腰痛学会の外保連加入は間に合わないため、JSSR+内保連で要望予定。外保連試案掲載ないので、検査委員会に提出要。

**材料**：放射線防御手袋(遠藤)

エアトームバーについては複数回使用可能なものもあり、周知が必要。単回使用の刃物を再使用可能にするのは不可。材料要望はしない。

**改正**：脊椎搔爬(渡辺)については、要望はせず、全審会に遠藤委員長が質問する形で検討する。

3) 高度変形に対する矯正固定術、EOSは、側弯症学会で行う。試案主学会変更を手術、検査各委員会でお願います。

- 4) 術中透視使用加算は、日整会と連絡をとってエビデンスを作成：担当平泉
- 5) 腰痛学会にて、社保委員会が発足報告（脊椎の検査、保存療法を中心に申請）  
サルコペニアに関する DEXA 法、BIA 法における検査料  
筋肉脂肪定量検査：D217 骨塩定量検査 DEXA360 点，エコー80 点
- 6) 次回開催 JSR 抄録、要望項目申請前の打ち合わせ 9/26（水）予定

**外保連委員**

**実務：**JSSR 鈴木、吉井、**側弯：**宮城、井上

**手術：**JSSR 遠藤、高野、**側弯：**八木、藤田

**処置：**委員長平泉、鈴木、武者、**側弯：**酒井

**麻酔：**JSSR 吉井 **側弯：**酒井

**検査：**JSSR 武者、**側弯：**谷口

**広報：**JSSR 高野

**オブザーバー：**山田